



平成25年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年12月13日

上場会社名 株式会社 ナイガイ
 コード番号 8013 URL <http://www.naigai.co.jp/>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 泉 潔
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門担当 (氏名) 市原 聡
 四半期報告書提出予定日 平成24年12月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5822-3810

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年1月期第3四半期の連結業績(平成24年2月1日～平成24年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年1月期第3四半期	12,279	△3.0	47	△56.6	24	△51.9	3	△75.8
24年1月期第3四半期	12,662	3.5	110	—	51	—	14	—

(注) 包括利益 25年1月期第3四半期 △19百万円 (—%) 24年1月期第3四半期 △152百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年1月期第3四半期	0.05	—
24年1月期第3四半期	0.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年1月期第3四半期	13,240	6,896	52.0	92.97
24年1月期	12,493	6,908	55.2	93.16

(参考) 自己資本 25年1月期第3四半期 6,879百万円 24年1月期 6,894百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年1月期	—	—	—	0.00	0.00
25年1月期	—	—	—	—	—
25年1月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年1月期の連結業績予想(平成24年2月1日～平成25年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,800	△1.8	200	39.3	150	28.9	120	57.9	1.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年1月期3Q	78,281,815 株	24年1月期	78,281,815 株
② 期末自己株式数	25年1月期3Q	4,282,009 株	24年1月期	4,276,543 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年1月期3Q	74,002,936 株	24年1月期3Q	74,013,601 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後、様々な要因によって予想値と異なる場合があります。業績予想に関しましては、【添付資料】3ページ「1. 当四半期の連結業績に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

添付資料の目次

1．当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2．サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3．継続企業の前提に関する重要事象等	3
4．四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8
(5) セグメント情報等	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、復興需要等が下支えとなったものの、国内外で混迷を続ける経済環境の影響などから、企業の設備投資額は減少、さらに消費マインドの悪化により個人消費額も減少するなど、依然として先行き不透明な状況が続きました。

衣料品業界におきましても、厳しさを増す消費環境に加えて、春から初夏にかけての天候不順、8月以降も長引く残暑などが響き、依然として厳しい状況で推移しております。

こうした中、当社グループは第3四半期以降も、引き続き、期初に掲げましたレグウェアを中心とする卸売り事業の収益力改善、通信販売事業におけるインターネット通販の売り上げ拡大、テレビ通販の構造改革の諸施策に着実に取り組んでおり、グループ全体としては、テレビ通販事業の減収減益影響を織り込んだ結果、売上、利益とも前年同期実績を下回るものの、計画に対しては概ね予定通りの進捗となっております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、12,279百万円（前年同期比3.0%減）、営業利益は47百万円（前年同期比56.6%減）、経常利益は24百万円（前年同期比51.9%減）、四半期純利益は3百万円（前年同期比75.8%減）となりました。

セグメント別の業績概要は以下の通りです。

(卸売り事業)

レグウェア事業の状況につきまして、各販路とも長引く残暑の影響で、夏物の販売は比較的好調だったものの、秋冬物の立ち上がりがずれ込むなどで、10月中旬までは総じて苦戦が続きました。

百貨店紳士靴下の秋冬商材については、残暑の影響で本格的な販売が10月までずれ込み苦戦したものの、涼感素材を中心とした夏物プロパーが、ショート丈、スポーツ商材、ベズスタイルを中心に前年を上回り、全体としては概ね予測範囲での販売推移となりました。一方、百貨店婦人靴下は、市場全体ではブレンパンストが好調だったものの、当社主力の秋冬物ミセスソックス、柄タイツが夏物セールに押され苦戦、残暑対策で投入したスニーカーソックスも健闘はしましたが、秋冬物の立ち上がり遅れをカバーするには至らず、全体としては計画を下回る販売状況で推移しました。

量販店販路でも同じく秋冬物の投入は大幅にずれ込んだものの、大手GMSと取組んだPB販売はほぼ予定通りの進捗、さらに紳士靴下ではクール系機能商材、ショート丈ソックス、婦人靴下でもレース、フットカバーなどが牽引したことなどから、販路全体では概ね計画通りの販売を達成することができました。

専門店販路は、パンストなどが牽引材料となったものの、その他ソックス類の販売は特筆すべき売れ筋アイテムもなく低調に推移するも、秋冬物の先行投入等が寄与して概ね計画販売レベルを維持しました。

その他卸売り事業の株式会社NAP、ロンデックス、OEM、輸出、海外子会社の各事業については概ね計画通りの進捗で推移いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間での卸売り事業全体の売上高は9,374百万円（前年同期比2.2%減）、営業利益については、物流部門の共同配送事業開始に関わる初期コスト増の影響を含み182百万円（前年同期比11.3%減）となりました。

(通信販売事業)

テレビ通販を主体とする株式会社ナイガイ・イムは、売上に関しては、8月以降、主力ブランドが順調に推移し、減収とはなりますが概ね計画通り、損益につきましては大幅な経費削減策が寄与し、計画を上回る推移となっております。また、課題の在庫販売に関しても、セール番組の獲得、WEB販売の強化により、ほぼ計画通りに消化をしており、期初より取り組んでおります事業構造改革は概ね計画通りに進んでおります。

インターネットショッピングを展開するセンチレーワン株式会社は、バッグ販売、レグウェア販売ともに前年を大きく上回り、27.7%の増収となりました。また販売費など経費の効率的運用により、営業利益では前年および計画を上回る結果となりました。好調なレグ販売では新商品のメンズストッキングがヒットしており、今後益々販売増が見込まれています。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間での通信販売事業全体の売上高はテレビ通販事業の構造改革に伴う計画を織り込み 3,012百万円（前年同期比12.8%減）、営業損失は132百万円（前年同期は90百万円の損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に対して747百万円増加し、13,240百万円となりました。流動資産では、現金及び預金が370百万円増加し、受取手形及び売掛金が199百万円減少、商品及び製品が645百万円増加しました。固定資産では、有形固定資産がハードウェア機器等の増加により44百万円、無形固定資産がソフトウェア等の増加により68百万円増加し、投資有価証券が時価の下落により47百万円、その他が営業保証金の返還等で43百万円減少しました。

負債は、前連結会計年度末に対して760百万円増加し、6,344百万円となりました。支払手形及び買掛金が125百万円、短期借入金601百万円それぞれ増加し、返品調整引当金が131百万円減少しました。

純資産につきましては、四半期純利益3百万円とその他の有価証券評価差額金及び為替換算調整勘定の減少17百万円等により、前連結会計年度末に対して12百万円減少し、6,896百万円となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ3.2ポイント減少し、52.0%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年1月期の通期業績予想につきましては、第3四半期累計期間の進捗及び第4四半期の計画見通しの結果、現時点では前回予測通りの売上高17,800百万円、営業利益200百万円、経常利益150百万円、当期純利益120百万円での着地を見込んでおります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(追加情報)

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度におきまして、経営合理化策が概ね完了し、営業利益の黒字化を果たすことができましたが、子会社の株式会社ナイガイ・イムの売上拡大に伴う在庫の急増により、収支バランスが悪化したことから、連結キャッシュ・フローがマイナスとなりました。

当連結会計年度は、株式会社ナイガイ・イムにおいて、展開ブランドの集約、SCMの再構築、在庫の削減を軸とした事業の抜本的改革を実施し、連結キャッシュ・フローの黒字化を計画しております。

当第3四半期連結会計期間末における資金ポジションから判断いたしましても、継続企業の前提に関する重要な不確実性はないと判断しております。

なお、当社グループは、厳しい経済環境下で予測される消費行動の変化に適切に対応し、グループ業績の安定的な黒字体制を確実なものとするため、以下の各課題に取り組んでまいります。

中期経営計画推進による成長戦略の展開

- ・ レッグウェア事業の新規販路シェアの拡大と既存販路深耕
 - ・ インターネット通販事業の拡大と収益力強化
 - ・ グループ内での直買製販一貫連携による収益力強化
- 株式会社ナイガイ・イムの抜本的事業構造改革による収支バランスの改善
- ・ 展開ブランドの集約による事業効率の改善
 - ・ SCMの再構築による効率的な生産調達体制の確立
 - ・ 販売ルート拡大による在庫削減
- 2013年度を起点とする新三カ年計画の策定

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,318	3,689
受取手形及び売掛金	3,261	3,061
商品及び製品	2,901	3,546
仕掛品	9	16
原材料及び貯蔵品	86	80
その他	358	251
貸倒引当金	37	31
流動資産合計	9,898	10,614
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	58	52
土地	58	59
その他(純額)	93	140
有形固定資産合計	209	253
無形固定資産		
投資その他の資産	291	359
投資有価証券	1,856	1,808
その他	291	249
貸倒引当金	54	43
投資その他の資産合計	2,093	2,013
固定資産合計	2,594	2,626
資産合計	12,493	13,240

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年10月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,081	2,207
短期借入金	1,245	1,846
未払法人税等	39	46
賞与引当金	29	77
返品調整引当金	354	223
その他	625	573
流動負債合計	4,376	4,975
固定負債		
長期借入金	146	278
退職給付引当金	926	965
繰延税金負債	102	91
その他	34	34
固定負債合計	1,208	1,369
負債合計	5,584	6,344
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,592	7,592
資本剰余金	6,921	6,921
利益剰余金	7,086	7,083
自己株式	460	460
株主資本合計	6,966	6,969
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51	63
為替換算調整勘定	20	27
その他の包括利益累計額合計	72	90
少数株主持分	14	16
純資産合計	6,908	6,896
負債純資産合計	12,493	13,240

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年2月1日 至平成23年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年10月31日)
売上高	12,662	12,279
売上原価	8,404	7,909
売上総利益	4,258	4,370
販売費及び一般管理費	4,147	4,322
営業利益	110	47
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	18	20
受取保険金	15	-
為替差益	-	8
その他	25	17
営業外収益合計	59	48
営業外費用		
支払利息	22	33
持分法による投資損失	30	26
為替差損	49	-
その他	15	11
営業外費用合計	118	71
経常利益	51	24
特別利益		
固定資産売却益	6	-
特別利益合計	6	-
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	13	-
その他	0	-
特別損失合計	13	-
税金等調整前四半期純利益	44	24
法人税、住民税及び事業税	19	20
法人税等調整額	7	0
法人税等合計	27	19
少数株主損益調整前四半期純利益	16	5
少数株主利益	1	1
四半期純利益	14	3

(四半期連結包括利益計算書)
(第 3 四半期連結累計期間)

(単位 : 百万円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成23年 2 月 1 日 至 平成23年10月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成24年 2 月 1 日 至 平成24年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	16	5
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	159	19
為替換算調整勘定	15	14
持分法適用会社に対する持分相当額	5	8
その他の包括利益合計	168	25
四半期包括利益	152	19
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	153	21
少数株主に係る四半期包括利益	1	1

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第3四半期連結累計期間(自平成23年2月1日至平成23年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	9,206	3,455	12,662	-	12,662
セグメント間の内部売上高又は 振替高	379	-	379	379	-
計	9,586	3,455	13,042	379	12,662
セグメント利益又は損失()	205	90	115	5	110

(注)1. 調整額はセグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年2月1日至平成24年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	卸売り事業	通信販売 事業			
売上高					
外部顧客への売上高	9,268	3,011	12,279	-	12,279
セグメント間の内部売上高又は 振替高	106	1	108	108	-
計	9,374	3,012	12,387	108	12,279
セグメント利益又は損失()	182	132	49	1	47

(注)1. 調整額はセグメント間の取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。